

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和5年7月31日現在）

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■飛騨名農会 夏季セミナーを開催

7月10日、飛騨の産地形成と発展に貢献してきた農家が構成する飛騨名農会が、夏季セミナーを4年振りに開催した。

「地域が元気になる産業の発展方向を考える」をテーマに、先進的な食品加工施設やトマト3Sシステムの導入が進む飛騨高山高校山田キャンパスを視察した。続いて、菌床しいたけブロック製造や野菜の有機栽培、トマトジュース等の農産物加工に取り組む3経営体を視察した。知恵と工夫を生かし、地域性や独自の手法を活かした経営は会員に大きな刺激となった。さらに、有機栽培（自然農法）実践者の講演を聞き、研鑽を深めた。

農業普及課では今後も飛騨名農会への支援を継続し、地域の発展に貢献する。



【有機栽培に取り組む経営体を視察】

#### ■農福連携 ほうれんそう農家における農福連携の推進

7月25日、飛騨地域の障がい福祉サービス事業所によるほうれんそう調製場の視察と意見交換会が行われた。ほうれんそう生産者3名、福祉事業所4名、関係機関など計18名が出席した。

福祉事業所の職員は、視察を通じ調製場の労働環境や仕事内容を把握した。一方、ほうれんそう生産者は障がい者を雇用する上で理解してもらいたいことや、就労支援のタイプの説明を受け、障がい者雇用について知識を深めた。

農業普及課は関係機関と連携しながら農福連携を推進し、農業における労働力不足の改善に努めていく。



【農家と福祉事業所が意見交換】

### ぎふ農畜産物のブランド展開

#### ■夏秋トマト 灰色かび病の一斉調査を開始

7月10日、国の事業を活用し、環境モニタリング装置を導入している生産者のほ場で灰色かび病の発病調査を実施した。その結果、24件中8件で初発を確認し、発病有無に差が認められた。

調査は9月末まで定期的実施し、初発時期の差や最終的な発病程度に及ぼす要因をハウス内の温湿度の推移、圃場条件などのデータを分析し、明らかにしていく予定である。

農業普及課では本活動を通して、環境データを活用した本病の効率的な対策技術の確立に繋げていく。



【ほ場で発病の有無を調査】

#### ■水稻 各地区で青空教室を開催

「飛騨コシヒカリ」は、米の食味ランキングにおいて、4年連続で「特A」を取得している。本年度も良食味米を目指す中、6月下旬から7月上旬に、青空教室を開催した。

普及指導員と営農指導員が講師となり、いもち病やカメムシの防除等について解説し、今後の栽培管理を確認した。参加者からの有機栽培における穂肥等の日ごろの疑問にも、営農支援システムAgriLookの出穂期予測データ等を活用し答えた。

農業普及課では、今後も営農指導員と連携し、高品質で安定的な水稻栽培に向けて支援を行う。



【栽培管理について説明】

## ■水稲 白川村で美味しい米づくり研修会を開催

白川村では、「美味しい米づくり研究会」が中心となって、食味コンクールへの出品や、栽培技術の研鑽に取り組んでいる。

今年は、化学肥料の代わりに村内で生産される豚ふん堆肥を基肥に用いた栽培を本格的に開始した。そこで7月13日、鍵谷農業革新支援専門員を講師に招き、追肥などの肥培管理の現地研修会を開催した。

役場や農林事務所の職員が、16カ所の水田1枚1枚について葉色や生育状況を調査し、栽培農家に今後の管理を指導した。

農業普及課では、秋に向け美味しいお米に仕上がるよう今後も継続して支援を行う。



【追肥前に田んぼで研修】

## ■飛騨桃 目揃え会を開催

J Aひだ果実出荷組合協議会では、飛騨桃の本格的な出荷を間近に控えた7月24日、「飛騨桃統一目揃え会」を開催した。

J A全農岐阜及び市場からの情勢報告の後、桃を手に取りながら熟度や着色について出席者全員で目揃えを行った。農業普及課からは、今年の気象推移や桃の生育状況、病害虫の発生状況を情報提供するとともに、今後の薬剤防除の注意点等も説明した。

今年は、昨年と同時期の7月下旬から本格的な出荷を迎え、7月中旬以降好天が続いていることから糖度も高く食味も良好である。

今後も関係機関と連携しながら、栽培技術情報の提供や気象データの収集、病害虫防除暦の作成等を実施し管内果樹生産者を支援していく。



【桃の熟度や着色を目揃え】

## ■飛騨パプリカ 天敵放飼後の果実品質の検討を実施

「グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会」は、国の事業を活用し、化学合成農薬の散布回数低減を目的とした天敵昆虫等利用の実証を行っている。

7月25日、J Aひだ高山営農センターに生産者が集まり、天敵放飼にかかる室内検討会を実施した。農業普及課から、害虫の発生状況など実証の途中経過について報告を行ったあと、出荷目揃えと併せ、果実品質を検討した。現時点で害虫の被害は少なく、今後も推移を観察していく。

農業普及課では、天敵による防除技術の確立とともに、持続可能性を考慮した栽培技術の導入について検討を継続する。



【実証経過を説明】

## ■宿儺かぼちゃ ほ場審査会を実施

7月25日、「宿儺かぼちゃ研究会ほ場審査会」が開催された。宿儺かぼちゃは普通のカボチャと異なり、ヘチマのような独特の形状と灰緑色で縦縞のある表皮が特徴で、見た目からは想像できないようなホクホクとした食感と上品な甘みが消費者受けする特産品目である。

研究会では、栽培技術の向上、生産者同士の切磋琢磨のため、栽培管理の丁寧な生産者を表彰するほ場審査を実施しており、農業普及課は、ほ場の管理、着花状況、病害虫対策の実施といった観点から審査を行った。本年は、一番果の着果も良好で、病害虫による被害も少なく、良質なかぼちゃの出荷が期待される。今後もかぼちゃが消費者の食卓に届くまで、栽培管理や防除指導を行っていく。



【ほ場管理の  
良し悪しを評価】